

自立支援・重度化防止の取組について

第7期計画より、新たに記載することとされた市における自立支援・重度化防止に関する取組と目標について、実績を把握した上で考察し、改善策を検討した。

取組目標	評価項目・目標数値	実績	考察及び改善策
① 介護・支援を要しない高齢者の増加	認定状況により検証 (対象:75歳以上85歳未満) 平成29(2017)年度:80.8% ↓ 令和2(2020)年度:82.5%	R元年度 :81.4%	<p>介護・支援を要しない高齢者(対象:75歳以上85歳未満)はH30年度(81.1%)より増加したものの、目標は未達成となる見込み。</p> <p>要介護認定度別にみると、要支援1と要介護3の認定者が増加している。</p> <p>非該当者が介護・支援を要する状態へ移行することを防ぐ対策については、目標を達成できなかった事業の見直し及び新規事業を検討する際は、取組みへのきっかけと継続という視点をもって魅力的な事業の構築について検討する必要がある。</p> <p>軽度者への対策については、地域ケア会議や生活支援コーディネーターから抽出された地域課題について、あんしんケアセンターと協働し多職種で解決策を検討していくことで、介護予防・重度化防止のための環境づくりや、高齢者が歩いて行ける場所に通いの場を増やすとともに、地域リハビリテーション活動支援の充実を図る。</p> <p>また、地域の高齢者が介護予防に向けた取組みを自主的に実施されるよう、介護予防に資する自己管理用ツール(介護予防手帳)を有効に活用するとともに、自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントの強化のために自立促進ケア会議を活用していく。</p> <p>中度者等認定者への対策については、認定者にとって適正なケアプラン作成や給付サービスの提供により自立を促し、重度化を防止するため、介護支援専門員等専門職との連携を強めて取組み目標の達成に努めていく。</p>
② 介護予防に日頃から意識的に取り組んでいる高齢者の増加	介護予防に日頃から意識的に取り組んでいる高齢者の増加 平成28(2016)年度:31.6% ↓ 令和元(2019)年度:50.0% ↓ 令和4(2023)年度:80.0%	R元年度 :57.5%	<p>令和元年度に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果において、目標数値に達した。</p> <p>…各保健福祉センター・各あんしんケアセンター等において実施された普及啓発活動や、各介護予防事業等の周知が、市民一人ひとりのセルフケア意識の醸成に一定の効果がみられたものと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防普及啓発パンフレット作成 …ポイント付与など魅力的な事業や地域活動に繋がるような事業は取組み評価が高く、目標数値の達成に寄与したと考えられる。 ・健康運動習慣の普及・定着の推進事業(健康づくり事業、健康運動対策事業(ヘルスサポーター養成教室、チャレンジ運動講習会)) ・介護支援ボランティア事業 <p>→高齢者自身による取組みへのきっかけと継続という視点を持って、魅力的な介護予防事業の構築について検討するとともに、普及啓発の強化に努める。</p>
③ 介護住民防主体活動への通いの場参加促進	(1) 介護予防に資する住民運営による通いの場への参加人数 平成28(2016)年度:10,383人 ↓ 令和2(2020)年度:16,000人 (2) 通いの場の箇所数 平成28(2016)年度:532か所 ↓ 令和2(2020)年度:800か所	(1) R元年度 :20,999人 (2) R元年度 :976か所	<p>通いの場の箇所数及び参加人数ともに目標数値に達した。</p> <p>…通いの場の立上げや参加へのきっかけに繋がる事業(元気高齢者が参加する事業)は取組み評価が高く、目標数値の達成に寄与したと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー講座事業、チャレンジシニア教室 等 <p>→これらの事業の充実を図り、更に通いの場の増加及び参加者の増加につなげる検討をするほか、通いの場に継続して参加できるよう、事業の内容を引き続き精査、改善し、さらなる充実を図る。</p> <p>また、新しい生活様式を踏まえた実施形態の検討も要する。</p>